

1.精神分析理論から見た倫理

ネオテニーであり原理的・構造的に他者に依存する、人間における他者への信頼→良心（≒超自我、規範）の原型（フロイト） cf.人が人を殺せないのはこのため

→規範や秩序の可塑性

cf.他者への信頼がゆらぐ強迫神経症→他者への理解強迫

統合失調症→妄想と脅迫的他者による世界の構築

自閉症→他者を介さない、自身による世界の秩序形成

→規範だけでなく、言語と主体の関係に関わる構造（主体にとっての言語の意味としてのフェルス、意味の可塑性）でもある。

2.倫理、真理と知 cf.4つのディスクール

主体にとっての知（S2）が世界に位置づけられるあり方を支えている、倫理や真理の審級（大他者、S1）

近代以降、S1が揺らぎ、ヒステリーのディスクールの登場（大他者を批判する科学、政治）。ただし、S1を前提とした構造。

現代は、「資本主義のディスクール」が力を奮い、S1は力を失い、その場所に主体が全能のポジションとして位置づけられる。シニフィアンは回付せず、シーニュの経済となる。他者や知と関係を持たず、対象と直接出会い、幻想は不在である。

S2がS1の機能まで代替→STM言説 ex.「煙草を喫うな」→「煙草を喫うとがんになります」

3.ポストモダンの病理、および限界的社会性……情動による統治と情動による社会組織

①ジジエック「不平の文化」（1999, *The Ticklish Subject*）

大他者に対する不信およびシニカルな態度と同時に、どこかで黒幕が握っているというパラノイア的幻想

②デュピュイ「群集、パニック、市場」→社会解体場面における人工的社会性（2003, *La Panique*）

	他者との関係	匿名性	伝染性
群集	ナルシシズムの否定、一人のリーダーへのリビドー備給	リーダーが集団の人格を代表	伝染
パニック	ナルシシズム	匿名	伝染
市場	エゴイズム	匿名	伝染からの保護

cf.ギデンズ・ベックのリスク社会論に欠如している、S1や文化、主体、世界についての考察（ジジエック、スコット・ラッシュ、ル・ブルトン、デュピュイらが批判）

リスクに対して、メアリー・ダグラスが指摘するような人類学的アルカイックな反応、また、自分はセーフであるとするコントロールの幻影、楽観主義。

#### 4.ヘイト

知（リソースやアクセス）の欠如、知と結合するための主体の不安定性、  
ヘイト者の多くの割合に、関係からの疎外が見られること  
ミソジニーとの結合の強さ、傷ついた男性性の回復（攻撃性）

#### 5.修正主義における、戦時否認の反復

冷戦下の戦後米占領体制における平和天皇・日本人犠牲者神話により、戦争否認（アジアへの戦争責任、アメリカ批判の認識の停止）を続けてきた日本への抑圧物の回帰が、安倍や日本会議の運動となって表れているが、それ自身が否認の反復であり、ネオリベ統治である点。戦陣訓そのものが戦時強姦の否認、自決主義は計算された戦時合理性、ポスト明治アノミー、激しい競争と無謀な平準化を伴う軍の中隊家族主義等。



#### 6.文化と社会を支える死（現実界）の象徴化と共有

戦争安保世代とシールズの接点  
→排除される子どもや若者の居場所の可能性  
cf.一方でのリレーショナルアートとしての現代アートの体制性、アートや文化が当地のツールに（現実的なものの排除）

#### 7.他者、未来、希望の枯渇

効率と経済の機制のもとで自己利益に走る。他者と連帯するケアは貧乏クジとなる。  
日本人の負け犬現世主義（作田）…現世の腐敗と闘う反俗・超越志向が弱く、むしろ滅びを自然に任せて待つ消極的ペシミズム。近代になり有用価値が優先してくると、権力、権威、多数派にナイーブに同調。しかし共感価値に反することのリスクを考慮して、自己利益の追求は緩和され、結果勝ち馬主義に乗る（現実無視）。→ひきこもりを苦しめる「世間」と呼ぶ

#### 8.メディア

争点型報道→戦略型報道による政治的シニシズムの悪循環（Cappella et al.1997）  
ジャーナリズム界の「鏡のゲーム（互いが互いを真似し合うゲーム）化」、競合者の相互監視化、特ダネ主義→「ジャーナリズムにおいては、競争が画一性と凡庸さを生み出す」。ジャーナリズム界は界の自律性が低く、視聴率や売上等の外部要因の影響を受ける。そして、政治界に影響を及ぼす。（ブルデュー）

#### 9.グローバルと流動化による政治的条件

政治の持つ媒介性（制度をくぐり抜け超え出る新しい出来事を象徴化すること）が「ポスト民主主義」によって廃止され、また社会の流動化のもとで「現実的なもの」（制度をくぐり抜ける出来事）は突出しやすくなり、それは民主主義（ランシエールのいう「デモス」的、他者に開かれた、平等性を志向するという意味での）と結合しやすい。ラディカル民主主義はこの点で熟慮型でさえ「コンセンサス民主主義」として批判する視点を持つ。セキュリティという観点では不安を煽られやすく民主主義的なものは弾圧されやすくなり、ナショナル・セキュリティ・パフォーマンスの結合する（極）右は、日本では民族多様性を欠くだけに台頭しやすい。